

考古資料館夏期教室

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の体験学習 「平安京左京四條四坊二町」にあたる高倉小学校の発掘現場（平成5年8月6日）。

昭和54年11月に開館した京都市考古資料館では、埋蔵文化財に関する市民の理解と認識を深めていただくために文化財講座、特別展示など種々の普及・啓発活動を行なっています。これらの活動の一つとして、学校の夏休み期間を活用し、小・中学生を対象にした夏期教室を行なっています。昭和55年8月から年1回開催し、平成5年8月で第14回を数えました。

夏期教室では体験学習を通じて、市域の埋蔵文化財への理解を深めていただくためのプログラムを組んでいます。

小学生夏期教室

小学生の夏期教室では資料館の展示を活用した学習と、発掘してみつかった遺物、また現存する遺構を通して、京都の歴史を学んでもらいました。

発見した遺物を記録する一つの方法として拓本をとる体験をしてもらいました。拓本というのは石碑や瓦など凹凸のある模様を写しとるもので、考古学では写真や実測図と同様に遺物がもつ情報を記録するのに用いられています。

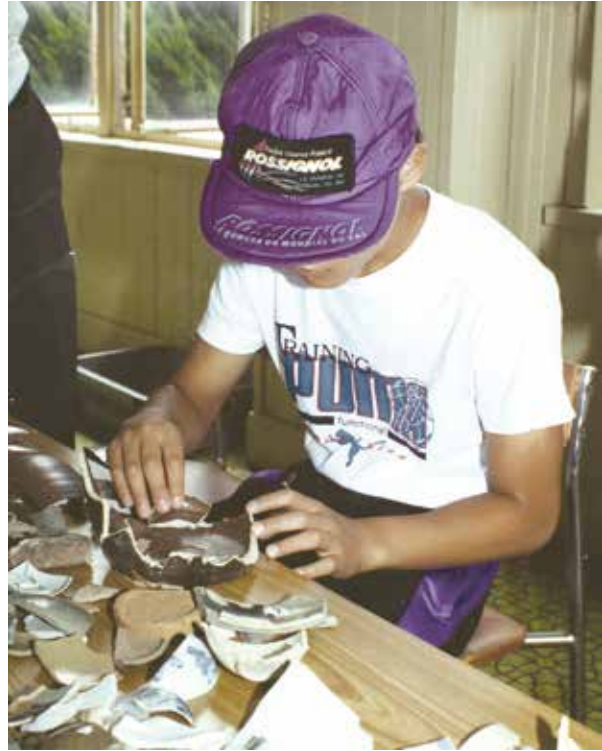
平安京をひかえた京都では各地で作られた瓦が多く運びこまれて

いました。調査でみつかったこのような瓦を使い、用途から作り方の説明に始まり、拓本のとり方をわかりやすく説明してから実際にとってもらいました。鮮やかに模様をとれた人、にじんってしまった人などがいましたが、この実習を通して、瓦のもつ歴史的意味を理解していただきました。

市内には数箇所遺跡が保存されていますが、実際に遺跡をみて歴史を実感していただくために、右京区鳴滝^{おんどやま}音戸山頂上に移築復元した御堂ヶ池^{おんどがいけ}1号墳と、右京区嵯峨^{かぶとつか}甲塚町にある甲塚古墳の見学を



拓本実習



遺物接合作業

しました。これらは古墳時代後期に属し、横穴式石室を持つ円墳で当時の状況を今によく残しています。

御堂ヶ池 1 号墳は、調査の結果 6 世紀後半に造られたことがわかりました。この古墳は、元は右京区梅ヶ畑向ノ地町にありましたが、昭和 59 年に京都市によって現在の位置に移築されました。ここで古墳時代の歴史や古墳の構造、納められた副葬品の説明のあと、広沢池から数々の群集墳のある北嵯峨の山々を遠望しながら甲塚古墳の見学をしました。

古墳見学では親子教室ということで保護者共々勉強しましたが、児童達だけでなくお母さん方も一生懸命で「なぜこんな大きな墓を造る必要があったのか」、「器の形に違いがあるが、使い方にも違いがあるのか」、「土器の色が違うけれどもなぜか」など多くの反響が

ありました。また、移築された古墳の見学を通じて遺跡の保存・活用方法の一端を理解していただきました。

中学生夏期教室

中学生には拓本実習のほかに、市内で実施している平安京左京四条四坊二町の発掘調査に参加していただきました。ここでの目的は、発掘をすることによって文献史料に残されていない歴史的事実が、遺物や遺構を通して明らかになることを理解していただくことにあります。

発掘現場では調査担当者から遺跡の概要、調査の進め方、いろいろな発掘用具の使い方、遺物整理の手順などの説明をうけたあと、実際に現場で遺構を見つける作業をしてもらいました。遺構の中から土器を見つけるたびに生徒達は歓声をあげていました。

また他方では、遺物の復元作業

をしてもらいました。この作業では、何とか元の形にしようと、ほかの席まで行なって接合できる遺物を探していた熱心な生徒もいました。

後日、資料館に送られてきた子供達の感想文を紹介します。

「昔の人達が生活していた様子をいろいろ想像してどきどきしました」(小学生)、「暑かったけれど土をどけていくと胸がワクワクした」(中学生)、「私は歴史は苦手なほうです。でもたった 2 日間だったけれども、歴史がどんなに楽しいものかわかり始めてきました」(中学生)などの反響がありました。

「見て・触れて・楽しく学ぶ資料館」から「参加する資料館」を目指している当館としては、このような企画をし、催すことが埋蔵文化財に対する理解を深めていただく近道だと考えています。

(南出俊彦)